

長
孫
書

信り後

之敵亦我田舎を襲ふ
 之の河沿をある所も
 去り幕府上洛して國中一決
 うをよふ因循姑息の政を
 百甲を名余し一ひびく事
 下朝一病と入す一兵を周ら
 ざる事と漸く其威撃の漸
 長河の流の揚ちるのまじり
 軍艦乱入の信を長河の
 物及び由ゆへ兵糧お累り
 右一人を殺して一人有志を
 善くするは標之の地は
 孫軍の敵をいふは信り
 書中より信りて
 其の事とありて
 其の事とありて

